

令和7年度

桑野小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学びの楽しさを実感できる主体的・協働的な授業の構築
- 一人一人の児童に応じた個別最適な学びの充実

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観、教員からの報告や研修等を踏まえ、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題に真面目に取り組めたりできる児童が多い。 ●学年が上がるごとに、既習の学習内容が定着している児童とそうでない児童の二極化が見られる。	・自分で既習事項を振り返るなどして、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・文章を正確に読み取り、内容を正しく理解したり要旨をとらえたりすることができる。	・日記指導を徹底し、習った漢字を適切に使えているか、接続詞等を使って書くことができているかをチェックする。 ・タブレットやデジタル教科書を効果的に活用し、授業のユニバーサルデザイン化や個別最適化を図る。 ・語彙力をつけるために、読書時間を保障したり、読み聞かせの機会を設けたりする。		・モジュールタイムに読書や漢字学習に取り組んだ。タブレットを使うことで、意欲的に漢字学習に取り組む姿が見られた。 ・アプリで自分に合った練習問題を解くことで、基礎学力を定着させることができた。 ・人数の多い学級では、日記を隔日の課題とすることで、一人ひとりに丁寧な指導を行うことができた。 ・低学年においては、日記を毎日の課題とし、チェックすることで、促音・拗音・句読点等や漢字・カタカナの使い方等の定着が図れた。	・学校全体として、タブレットのより積極的な活用が必要である。 ・タブレットの活用方法を教職員で共有し、学校全体で統一した指導を行う。 ・計算や漢字の力が定着していない児童もいるので、朝のモジュールタイムを活用し、定着が図れる取り組みを学校全体で統一して行う。 ・自分が書いた日記を読み返したり構成したりするなど、日記を活用する機会の工夫をする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○視写学習や読書活動の継続により、自分の思いや考えを表現する力が身につけてきている。 ●自分の考えと友達の意見を結びつけたり比べたりして考えを深めることに課題がある。	・各授業における課題等に対し、話し合い活動等を通して、理由が明確になるように自分の考えをまとめたり内容を吟味したりすることができる。 ・自分の考えと友達の意見を結びつけたり比べたりしながら、根拠や理由を明らかにして自分の考えを表現することができる。	・一人一人の考えを確かにもたせ、ペア学習や小集団学習などの話し合いの場を効果的に設定する。 ・友達の意見につけたり、つながり、広げていける授業展開を行う。 ・話形を提示し、発表の仕方をしっかり身につけさせる。		・ペアで話し合ったり、班で話し合ったりしたことを全体で発表する場を設定し、意見をまとめる力が身についた。 ・友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりする児童が増えた。 ・友達と意見や感想を伝え合うことに抵抗感がなくなり、落ち着いて考えを活動する姿がみられた。 ・友達の意見に対しての自分の考えを述べたり、相違点を発表したりできるようになってきた。	・小集団学習のきまりを作り、徹底する。 ・小グループ内でより考えを深められるような活動を行うために、話し合い方などを工夫する。 ・自分の考えと友達の考えを結びつけやすくするために、友達が話したら、自分なりの「リアクション」を取れるように意識づける。 ・子ども同士の意見がにつながる授業作りを行い、教職員が互いに授業を見て、よいところを取り入れていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができ、主体的に自主勉強に励む児童も見られる。 ●読書習慣が身につけている児童とそうでない児童の二極化が見られる。学校生活や学習内容において、自ら課題を見つけたら、不得意なものに対して主体的に取り組んだりすることに課題がある。	・自ら課題を見つけ、解決にむけて主体的に取り組んだり、学んだことを生活や学習に生かしたりすることができる。 ・70%以上の児童が学校や家庭で進んで読書することができる。	・自主勉強の仕方を例示したり、工夫されたノートを学級や学校全体で共有することで意欲を高める。 ・定期的に学級文庫を入れ替えたり、購入したい本を児童から募集し、読書の意欲を高める。 ・アウトメディア及び家庭読書の日を毎月第2土曜日に設定し、家庭への啓発を行うとともに親子で読書に親しめるようにする。		・テスト前には、自主学習をする児童が増えるが、習慣化するまでに至っていない。 ・宿題ではなくても、自主学習を行っている児童が増えた。 ・自分に必要なことを考えながら、ノートをまとめたり、自主学習に取り組んだりする児童が増えた。 ・学習内容に対して、自分なりの問いや疑問、学習課題を見つけられる児童が増えた。 ・家庭読書の日が、徹底できていなかった。	・タブレットを使った自主学習の方法の提示を行う。 ・学校で読書に親しむ習慣はついているので、家庭でも習慣化できるように、全学年で週末読書に取り組む。 ・成果物が残らない形で、自主学習に取り組む児童に対する評価の仕方を考える。 ・自分の学習をより深められる問いをもてる児童を育成する。 ・家庭読書の日を行事予定表に記載するとともに、各学級で図書室に行き、本を借りる。